

保育所等における不適切保育の防止について

問1. 神戸

保育所等での不適切保育について伺います。

近年、不適切保育の報道が続いている中、9月には、愛知県においても、東郷町の認定こども園で、不適切保育があったと報道されました。また一昨日は小牧の保育園でも不適切保育があったとニュースが流れました。弾くの現場が危機的状況になっています。その内容は、保育士が子どもに対して「本当にこの子嫌だ」「もうご飯なし」など、拒否的な言葉や脅迫的な発言をしていたとあり、特に東郷町では、保護者がこっそりカバンに入れていた録音機に残っていたとのことで、この事実にも驚かされました。

保育の実施主体である東郷町が園に対して行った聞き取り調査によると、当該事案の遠因されるものの中に、複数人の退職者が出ているのに補充がされておらず職員が疲弊しているとありました。ここだけではなく、人出不足の問題はかなりの園で起きており、切実な問題とお聞きしています。

保育所等は子どもに保育を提供するとともに、保護者に対する子育て支援を担うことも求められています。加えて保育所等を利用する子どもとその家庭の多様化などにより、保育士一人一人にかかる負担は大幅に増加しており、人手不足だけではなく、ストレスも多いと聞いているため、負担軽減は重要であると思います。私も幼児教育の現場におりますので、先生が一人休むだけで、他の職員にかかる負担は大きくなる現状を理解しています。当然、保育士の負担が増えれば、子どもたちへの影響も大きくなります。

そこでお尋ねします。

不適切保育を防ぐため、保育士の負担軽減に県としてどのように取り組んでいるのか伺います。

答弁1. 子育て支援課担当課長

本県では、保育士の負担軽減に資するため、保育士資格を持たないものの、保育に関する研修を受講するなどにより、一定の知識を持ち、保育士とともに子どもの着替えや食事の世話をする「保育補助者」

の雇上げや、清掃やおもちの消毒、園外活動時の見守りなど、保育の周辺業務を行う「保育支援者」の配置に必要な経費を助成しているところでもあります。

さらに、今年度からは、登園時の繁忙な時間帯等にスポット的に保育支援者を配置できるよう助成を拡充しました。また、園児の記録や指導計画に関する書類等について、運用の見直しや工夫により保育現場の負担軽減が図られると考えられる事項を、本年5月に県内の保育所等に通知したところでもあります。加えて今年30日には、こども家庭庁の職員の方にお越しいただき、その具体的な取組について、保育の実施主体である市町村の職員を対象とした研修会を開催することとしております。

問2. 神戸

不適切保育に限らず、閉鎖的な園の中にいると、通常行っている業務が当たり前のように思われ、漫然としてしまっている可能性もあります。自分たちが行っていることが当たり前・正しいと信じ込み、日常になってしまうと道がそれたままになってしまいます。その状況を冷静に見て、正しいかどうか判断するためには、外部による指導は必要です。そのため、指導監査は重要であると考えます。

そこでお尋ねします。

不適切保育の防止の観点から保育所の指導監査はどのように行っているのか伺います。

答弁2. 監査指導室長 坂上

指導監査では、監査を実施する全ての保育所等において、園長や主任保育士から不適切保育に対しての考え方や、職員間での意見交換のしやすさなど組織環境を聴き取った上で、児童の心身に有害な影響を与える行為をしていないか、そのような行為の防止及び発生時の対応に関する措置を講じているかについて、重点的にヒアリングを実施しています。

具体的には、園内の全保育室を巡回・確認し、保育の実際の様子を目視で確認している他、外部研修の受講状況を確認、全国保育士会が作成した「人権擁護のためのセルフチェックリスト」の活用や内部研

修等を実施し、子どもの人権・人格を尊重する保育や、それに抵触する接し方についての保育士の理解を深め、不適切な保育に関する認識を共有する取組がなされているか等を聴き取っております。

なお、ひとたび不適切な保育が確認された場合には、個々のケースにより対応は異なるが、市区町村と緊密に連携し、他の保育所の取り組みを知る立場であることからの助言、具体的ケースの共有、組織マネジメント及び保育士への研修や教育に関する助言・指導を行っております。

問3. 神戸

昨年9月、静岡県内の認定こども園において、送迎用バスに置き去りとされた園児が亡くなるという大変痛ましい事案が発生して以降、保育士の負担軽減のため、国は、ICT化を進めています。幼児教育現場に広がり、私の幼稚園でも導入しました。ほとんどの保育所や幼稚園でスクールバスを使用する園は設置することができ、その点では監視の目が行き届くと思います。

ただ先日も保育園で、園児を送っていった祖母が降ろすのを忘れ、さらに保育所が欠席確認をしなかったというミスが重なり、幼い命が亡くなりました。ICT化が進み、どんなにいい機械を入れても、ミスを防ぐためには、最後は人間の目で確認する必要があります。やはりマンパワーは必要だと思います。

負担軽減ももちろん重要だと思いますが、さらに不適切保育を防止するため、保育士の質も重要だと考えます。

そこでお尋ねします。県として、保育士の資質向上にどのように取り組んでいるのか伺います。

答弁3. 子育て支援課長 今宮

保育士の資質向上のための取り組みといたしまして、本県では、「保育士等キャリアアップ研修」を実施し、虐待予防の内容や、乳児や幼児の発達に応じた保育内容を学んでいただき、実践的な能力の強化に努めております。

例年、研修の希望者が多いため、今年度から受講定員を3,890人から9,000人へと2倍以上の増員をし、希望されるすべての方が受

講できるよう体制整備を図りました。

さらに、キャリアアップ研修とは別に、今年14日には、不適切保育における対応をテーマとして、保育士を対象とした研修会を開催することとしており、200名以上の方が参加の予定です。

県としては、引き続き、保育士の業務の負担軽減や資質向上等に取り組む、不適切保育の防止に努めてまいります。

要望. 神戸

最後に要望をさせていただきます。今回の東郷町も小牧市も含めて、不適切保育のニュースを聞くたびに、犠牲になっている子どもたちのことを思うと本当に心が痛みます。言われたことがいつまでも残っている、気にするっていうお子さんもいます。私も幼児教育の現場にいるので、先生たちのモチベーションをどのようにアップしたら良いとか子どもたちへの対応に神経を使います。子どもたちは一人一人性格が違うので、先生たちには一人一人の性格だとか対応に合わせてちゃんとフォローするように言っています。

私は、知り合いに保育園の園長さんもいるので、お互いに現場の話をする、現場の先生たちがどれだけ疲弊しているか、特に先生たちも保育士たちも自分の子どもをかかえながら仕事をしている現状があり、女性が働きながら子育てしていく大変さっていう現状もあります。どうしたら良いのか、という結論に行き当たります。

さらに職員を補充しようとしても、なかなか希望者がいない現実と、就労人口が減少し、さらに希望者が減って、負の連鎖が起こってくる現状を非常に危惧しています。

保育士や幼稚園教諭の笑顔が子どもたちにとって一番必要なのに、つついきつ口調で子どもたちに当たってしまったということがあると、本当に子どもたちがかわいそうです。やはり子どもたちに笑顔で接することが一番重要であると思います。

それは家庭も同じで、今のお母さんたちは、就労もあって、眉間にしわを寄せながら、子どもを預けたり、仕事に行かなければならない現実。預けられた子どもたちが一番悲鳴をあげているのではないかと。

先ほど、キャリアアップ研修で3,800人から9,000人に増やすとおっしゃったし、他の研修会も200名参加されて資質向上に取り組

んでいるということなので、やはりこれは根気よくやっていくしかないと思います。

それが子どもたちに伝わっていくし、そこで育った子どもたちが、私も保育園の先生、幼稚園の先生になるって思ってくれるようなそういう先生たちであってほしいと願います。

問題がどんどん出てくるということは、現状を見直さなさいというサイレンだと思えます。そのたびに対応していかなければいけません、それを前向きにとらえて、次はどうするか、こういう段階でどのように進めていくのが良いかということ、子どもたちが犠牲にならないよう、ぜひ、しっかり指導を進めていただくことを要望して質問を終わります。